

令和3年度事業計画書

〔 自 令和 3年 4月 1日
至 令和 4年 3月31日 〕

公益財団法人 京阪神ケーブルビジョン

令和3年度事業計画書及び収支予算書等について

I 事業計画

1 基本方針

当財団は、有線によるテレビジョン放送の再放送を行うこと等により、高層建築物、高速道路、鉄道等を原因とするテレビジョン放送の受信障害を解消することを目的としている。

令和3年度においても、障害等による再放送の停止を最小限にするとともに、可能な限り長期にわたり事業を継続していくことができるよう、以下の重点施策を推進する。

2 重点施策

(1) 経年劣化施設の計画的改修等

ア 計画的な施設改修

経年による障害発生リスクを抑えるため、平成25年度から大規模施設などの更改・改修工事を実施しており、令和3年度は、主幹線部分とそこから分岐した幹線部分を光化する改修工事（FTTC方式）を本格化する。

（これまでの更改・改修工事の経緯）

平成25年度～ 主幹線は光ファイバー、幹線から引込線までは同軸ケーブルのハイブリッド方式（HFC方式）への全更改工事を実施

平成29年度～ 業界全体の動向として、同軸ケーブルから光ファイバーへの移行が進むなかで、主幹線に用いてきた同軸系機材（17Cケーブル等）の調達が困難になったことから、主幹線部分の光化のみの改修工事にシフト

令和2年度～ 幹線部分に用いてきた同軸系機材（12Cケーブル等）の調達も困難になってきたことから、主幹線部分だけでなく幹線部分まで光化する改修工事（FTTC方式）に着手

イ 計画的な施設の機能保全点検等

アの対象とならない施設について、計画的に点検を実施し、必要な補修や不要な設備の撤去等を実施する。

ウ 施設周辺の状況変化に応じ、受信基地移設、伝送路移設などの対策を進める。

(2) 施設維持管理体制の充実

ア 全ての維持管理業務の基盤となる施設のデータベースとして、平成29年度から管理図面のCAD化を実施しており、令和3年度も順次、作業を進める。

イ 障害の早期発見等のため、施設の遠隔監視システム整備を拡充する。

(3) 大規模地震等災害への対応

上記(2)イの遠隔監視システムの整備により、災害時における障害の有無の早期確認を可能にするほか

ア 伝送用光ファイバー切断等の事故に備え、バックアップ施設の整備を行う。

イ 関係事業者との連携等、災害時の事業継続に有益なソフト面での対策を検討する。

(4) 無電柱化への対応

国及び地方公共団体など関係行政機関と連携し、無電柱化への対応を進める。また、無電柱化に係る業界の動向、新工法による地中化に関する情報収集に努める。

(5) 受信障害対策事業の実施

テレビジョン放送のデジタル化により、高層建築物等に起因する受信障害が広範囲に発生する可能性は低下しているが、なお一部で受信障害は発生することから、受信障害調査業務の受託、受信障害対策工事及び維持管理業務の受託に努める。

(6) その他

ア 新型コロナウイルス感染症対策

引き続き、感染の状況やワクチン接種を含む対策などについて、内外の動向の情報収集を行い、適切に対応する。

イ デジタル化、業務改善の推進

令和 2 年度下半期に引き続き、令和 3 年度も重点アクション・プランを策定し、取組を推進する。

ウ 安全推進・職員の資質向上等

業務・作業の安全推進や職員の資質向上のため、来年 1 月に義務化されるフルハーネス安全帯着用に関するものを含め、研修・講習を実施するほか、日常的に OJT による人材育成を行う。

エ コンプライアンスの確保等

関係機関への諸手続き、内部管理事務について法令を遵守するとともに、社会規範・倫理に適合するため、コンプライアンス推進計画を策定し、実施していく。

自然環境保全や CO₂ 排出削減に向け、可能な対策を実施する。

オ 経営資源の効率的・効果的活用

長期に亘り継続的・安定的にサービス提供を行っていくため、経営資源の効率的・効果的活用に努めていく。

カ 資金運用

事業の継続的・安定的実施のための財源は、資金運用による受取利息が大きな収益になっている。基本的に近年の低金利情勢が当面継続すると予想されることから、資金運用規程に基づき、安定性・確実性に重点をおきながら、可能な限り有利な運用に努めていく。

II 令和 3 年度収支予算書等

令和 3 年度の収支予算書等は次のとおりとする。